



昨年度の阿蘇市人権作文集『かけはし』の作品の中から一部を紹介し、皆さんもぜひ、家族や身近な人との関係を見つめ直し、人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

いねかりの手伝い

坂梨小学校4年(現5年)

高木 航士

(たかきこうし)

「こうし、いくぞ。」
と、そうし兄ちゃんが言った。
「うん、わかった。」
とぼくが言った。ぼくと兄
ちゃんは、自転車にとび乗っ
た。一生けんめいこいで、
いねかりをする田んぼに着
いた。じいちゃんは、コンバ
インにのって、すでに半分
も終わっていた。ぼくは、(じ
いちゃん、はええ)と思った。
すると、じいちゃんが、
「おおい、その米ばト
ラックにつんどって。」
と、ぼくたちにたのんできた。
ぼくたちは、
「はあい。」
と言った。
兄ちゃんは、
「よいしょ。」

とかけ声をかけながら、何
十キログラムかある大きな
ふくろを、軽々と持ち上げた。
ぼくもそれを見て、同じよ
うにやってみると、とって
も重くて、ほんの少ししか
持ち上がらなかった。それ
を見た兄ちゃんが、
「航士、おまえは、トラッ
クの上で米をならべろ。」
と言った。ぼくは、トラッ
クの上にとびのった。兄ちゃ
んは、軽々と米を持ってじゃ
んじゃん運んでくるから、
ならべるのについていける
かなと思った。ならべるだ
けでも、大変だったからだ。
それでも二十ふくろぐらい
の米を、トラックにどうに
かのせてしまった。米は、
トラックの荷台の面が見え
なくなるまで、いっぱいだっ
た。ぼくは、兄ちゃんに、
「重かったね。」
と聞いた。お兄ちゃんは、

「うん。」
と言った。でも(兄ちゃん
は強いな)と思った。
じいちゃんに、
「次は何すると。」
とたずねた。するとじいちゃ
んが、
「コンバインのはしにのって、
米がもれんか見とって。」
と言った。コンバインのは
しにのると、がたがたゆれ
るので、少しこわかった。
田んぼを一おうふくすると、
ふくろが満タンになってきた。
するとその時、お母さん
が来て、
「買い物に行くけど、行くね。」
とたずねた。そうし兄ちゃ
んは、
「行く。」
と答えて車に行った。でも
ぼくは、
「行かない。」
と言った。いねかりはまだ
終わってなかったので、じ

いちゃんを手伝おうと思った。
そうしたら、たいし兄ちゃ
んが、
「手つだう。」
と言って車からおりてきた。
一人でもがんばるつもりだ
ったんだけど、一人になる
から、本当は不安だった。
でも、たいし兄ちゃんが来
てくれて、少しうれしかった。
もみがふくろに満タンに
なると、米が出てくるとこ
ろのレバーをおしこんで米
が入るのを止めた。フック
を外して、ふくろのジッパー
をしっかり閉めて、もみの
いっぱい入ったふくろを取
りだす。この作業をずっと
続けていった。
その時とつぜん、「ザーツ」
と、はげしい音を立てて、
雨がふってきた。兄ちゃん
が大きな声で、
「雨がふりだしたぞお。」
と言った。

「じいちゃんどうすると。」
とぼくがたずねたら、
「かぜひくけん、帰ってい
いよ。」
といったので、ぼくと兄ちゃ
んは、自転車に乗っていそ
いで家に帰った。雨でずい
ぶんぬれてしまった。帰っ
てから、(じいちゃんは、そ
のまましてるんだらうか)
と心配だった。
じいちゃんは、しばらく
して帰ってきた。帰ってき
たじいちゃんは、びしよぬ
れだった。じいちゃんは、
米を刈ってしまったって、JA
に米をおろしに行ったそう
だ。ぼくは、(じいちゃん大
変だったんだな。やっぱり
さいごまで手伝ったほうが
よかったな)と思った。

平成二十一年度 阿蘇市人
権作文集「かけはし」より